

## 平成 28 年度 第 1 回長浜市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成 28 年 4 月 19 日（火曜日）10 時 00 分～11 時 50 分

II 場 所 長浜学校給食センター（長浜市南田附町 535 番地）

### III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、北川貢造教育長、井関真弓教育委員、  
西橋義仁教育委員、川口直教育委員

【オブザーバー】 大塚義之副市長

【事 務 局】 松居総合政策部長、米田総合政策部次長兼総合政策課長、  
野村総合政策課課長代理、板山教育部長、  
改田教育委員会事務局次長兼教育総務課長、伊吹教育総務課副参事、  
土田教育改革推進室副参事、横尾教育指導課長、川瀬幼児課長、  
中川すこやか教育推進課長、金森学校給食室長兼学校給食センター所長、  
青柳栄養教諭 ほか担当職員（4 名）

【議事進行】 松居総合政策部長

【傍 聴 者】 なし

【報道機関】 なし

IV 欠 席 七里源正教育委員、西前智子教育委員

### V 内 容

#### 1 開 会

- ・ 会議に先立ち、今回の「熊本地震」で犠牲になった方々に黙祷を捧げた。

#### 2 市長あいさつ

（要旨）

- ・ 北川教育長、教育委員の皆さま方におかれては、日ごろから、子ども達の教育の充実と発展、そして健全育成のために、大変なご尽力を賜っていること、心から感謝申しあげる。
- ・ 先日発生した「熊本地震」における多数の犠牲者のみなさまに対して、深甚なる哀悼の意を表すとともに、被災されたみなさまに衷心よりお見舞いを申しあげる。
- ・ いまもなお余震が続いており、予断を許さない状況であるが、被災地の一刻も早い安全の確保と復旧をお祈りする。本市としても「熊本地震支援対策本部」

を設置し、できる限りの支援を行いたいと考えている。

- ・災害はいつ・どこで発生するか予想が難しいことから、災害対策にしっかり取り組み、市民の方との連携を強化していきたい。
- ・先週の長浜のまちは、曳山祭り一色であった。晴天に恵まれ、昨年より2千人多い約3万人の観衆が見守る中、子ども達は立派に歌舞伎を演じ、難しい演目を披露した。今年の秋には「長浜曳山祭り」のユネスコ無形文化遺産登録が控えているが、本市にユネスコ登録される遺産があることは、大変な誇りであり、市全体でさらに機運を盛り上げていきたい。
- ・私はこれまでから「教育は国の礎であり、国家百年の大計である」と話しているが、「まちづくり」も「地域づくり」も「ひと」の上に成り立っており、そのための「ひとづくり」や「人材育成」こそ本市の発展の礎となるものだと考えている。
- ・将来の長浜市を支える子ども達は地域の宝であり、心身ともに立派な大人に育てあげることが、親の責務であることはもちろん、今や、地域や社会全体で支援していく必要があると考えている。
- ・このことから、地方創生と子育て世帯を支援するために一大決心して、今年度から、本市では市民全員で子ども達の成長を支える環境を整えるため、「多子世帯の保育料負担軽減」と「小学校の学校給食費の完全無料化」を行うこととした。
- ・学校給食を無料化することで、子ども達のすこやかな成長を市民全体で支える土台を築くとともに、あわせて、北部地域においても新たな給食センターの整備を進めることにより、安心・安全な給食を提供していく。
- ・これらを踏まえ、本日は「学校給食」を議題としたので、未来を担う子ども達のため、忌憚のないご意見を賜りたい。

### 3 議 事

#### 「長浜市の学校給食について」

事務局は、配布資料に基づき、「学校給食センターの状況」及び「長浜学校給食センター」、「食育・献立」について説明し、その後、意見交換を行った。続いて、施設内を見学し、学校給食の試食を行った。

この間、構成員から出された意見や感想は、次のとおり。

#### 〈意見・感想：教育委員〉

私が学校現場にいた頃、ある保護者から次のような苦情があった。長浜市がアレルギーに対応した給食の提供を始めたばかりの頃、アレルギーのある子どもに、対応した給食を配膳することができず、一般給食を食べて救急車で運ばれることがあった。

そのような事故を起こさないため、現在、アレルギーのある子どもに対応した給食を確実に運ぶ体制はどうなっているのか。

〈担当課〉

現在、アレルギーの申し出があった場合、まず、給食センターの職員と学校で検討委員会を設置し、現状を把握した上で対応を決定する。次に、予定材料表を保護者に配り、材料の確認をいただいている。給食の提供段階では、他の給食と混合しないよう、クラス・氏名を書いた個別の容器に入れ、配送コンテナの上部に収納し、配送している。その後、各学校では配食員と子ども・担任の先生の3者が対応給食の入った個別の容器を確認し、子ども自ら、自分の机の所まで配膳するという体制をとっている。

また、各家庭においても、当日の給食にアレルギーに対応したものが提供されることを保護者から子どもに注意してもらうよう、お願いしている。

〈意見・感想：教育委員〉

昨年度、アレルギーに関連してどのような問題が発生したのか。

〈担当課〉

全体で2件発生している。1件目は、乳なしの食品を納入しなければいけないところ、業者が製品コードを誤ったことで、乳ありの食品を納入したことである。業者の発注・納入ミスであるが、こちらとしても検収にミスがあった。

もう1件は、学校給食ではないが、小麦アレルギーのある子どもが、自宅で食パンを食べ登校し、学校でショック症状を起こしたことである。学校でいち早く対応したため、幸いにして、大事に至らず、病院からも対応が良かったという言葉をいただいた。

〈意見・感想：教育委員〉

給食を食べていない子はいるのか。

〈担当課〉

現在のところ、いない。

〈意見・感想：教育委員〉

安心・安全な給食を提供するために、調理作業の機械化等、様々な取組を行っているようだが、異物の混入を防ぐため、どのようなチェックを行い、どのような点に気をつけているのか。また、学校現場で問題が発生した場合、対応マニュアルは作成しているのか。

〈担当課〉

納入された食材は、検収室で目視による検収を行っており、虫食いなどがあまりにもひどい食材については取替えを行っている。また、汚れ等がひどい食材については洗浄回数を増やしている。この他、調理した食材を容器に入れる段階でも目視確認を行っており、食材の納品から給食の発送まで、何度も確認することで、異物の混入を防ぐ取組を行っている。

万が一、異物混入の連絡があった場合は、学校給食センター長が学校に向かい、状況を確認し、給食の時間内に、代替の給食を準備できるのであれば、代替の給食を提供している。用意できなかった場合は、文書で謝罪対応している。

#### 〈意見・感想：市長〉

私が子どもの頃と比べて、施設の衛生面で格段の差がある。合併をして良くなった点の一つが、この学校給食センターである。近代的で衛生的な施設で作られた給食を、旧市町の垣根を越えて、子ども達に提供できるからである。

学校給食を試食しながら、教育委員の皆さんと意見交換することができて良かったと思う。私の経験から、普段、言葉数の少ない人も食事を取りながら会話をすると、会話が弾み、意見交換を行いやすい雰囲気になる。

学校教育の場でも、給食時間の子ども達を観察することで、子ども達の教育に役立つことがあるのではないか。

#### 〈担当課〉

学校給食の時間は、担任の先生がしっかりクラスを管理できているかのバロメーターになっている。管理できているクラスは給食の配膳・後片付けの時間が早いが、できていないクラスは配膳・後片づけをしない子ども達もいて、配膳・後片付けに時間がかかる。

#### 〈意見・感想：教育長〉

学校給食の配給体制については、最終的に、この学校給食センターと北部に建設予定の2つの学校給食センターで市内の全小中学校に給食を配給したいと考えている。

## 4 その他

次回会議は、夏頃を予定。

## 5 閉会

### 教育長あいさつ

#### (要旨)

- ・市長の英断の一つが、地域で子ども達を育てるという考えのもと、9月からの小学校の学校給食の無料化や就学前の保育料軽減であり、非常に画期的なことだと考えている。
- ・このことから、是非とも、総合教育会議で学校給食を議題にしたいと思っていたこともあり、大変有意義な会議になったと思う。

11時50分 閉会